那珂市議会　原子力安全対策常任委員会記録

開催日時　令和４年９月９日（金）午前10時

開催場所　那珂市議会全員協議会室

出席委員　委 員 長　武藤　博光　　副委員長　花島　　進

委　　員　關　　守　　委　　員　大和田和男

委　　員　冨山　　豪　　委　　員　笹島　　猛

職務のため出席した者の職氏名

議　　長　萩谷　俊行　　事務局長　渡邊　荘一

次　　長　横山　明子　　次長補佐　大内　秀幸

会議に付した事件

（１）青森県六ヶ所村再処理施設視察及び東北町議会との意見交換の結果について

…視察内容について各委員から意見あり

（２）議員勉強会について

…勉強会の内容について協議

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長　皆さん、おはようございます。

本日は原子力安全対策常任委員会、ご参集賜りありがとうございます。

昨日の報道なんですけども、先般、訪問いたしました六ヶ所村の日本原燃なんですけども、そこに、本当は許認可がおりるっていうことだったんですけども、また再延期ということになって、何回再延期になるのか分からないということが報道されておりまして、原子力規制庁のほうのなかなか認可がおりないということだそうです。

それとあと、東海村にあります三菱原子燃料が、この秋から、いわゆるペレットのほうの作成を行うということで、連絡が入っておりますので、これから当委員会も、いろんな面で忙しくなるのかなというふうに思っておるわけでございます。

本日の内容は別紙を配布のとおりですので、皆様よろしくお願いしたいと思います。

開会前にご連絡いたします。

新型コロナウイルス感染症対策のため、出席者並びに傍聴される方につきましては、マスクの着用、また、手指の消毒をお願いいたします。

換気のため廊下側のドアを開放しております。

会議は公開しており傍聴可能でございます。

会議の映像を庁舎内のテレビに放送しております。

発言の際はマイクを使用し、質疑、答弁の際は簡潔かつ明瞭にお願いいたします。

携帯電話をお持ちの方はマナーモードでお願いしたいと思います。

ただいまの出席委員は全員であります。

欠席委員はございません。

定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席しております。

議長からのご挨拶をお願いいたします。

議長　改めておはようございます。

今日は、原子力安全対策常任委員会、ご参集いただきまして誠にご苦労さまです。

会議事件は２件だそうですので、武藤委員長を中心として、ご審議のほどどうぞよろしくお願いしまして簡単でありますが挨拶にかえさせていただきます。

今日はご苦労さまです。

委員長　ありがとうございます。

では１番目の議題に入ります。

青森県六ヶ所村再処理施設視察及び東北町議会との意見交換会の結果についてですが、７月12日から13日にかけて、青森県六ヶ所村の日本原燃核燃料再処理施設及び六ヶ所村に隣接する東北町議会原子燃料サイクル対策等特別委員会との意見交換会の結果について、本日は、委員の皆様からのご意見、ご感想などをお伺いしたいと思います。

まず、事務局から当日の内容をまとめたものを作成してもらっておりますので、そちら報告をお願いしたいと思います。

次長補佐　それでは、７月 12 日、13 日、東北町議会原子燃料サイクル対策等特別委員会との意見交換及び、六ヶ所村の日本原燃再処理工場の視察での内容について、起こしたものをご説明したいと思います。

初めに東北町議会原子燃料サイクル特別委員会との意見交換会でございます。

冒頭の長久保町長からのご挨拶の中では、六ヶ所村の原子燃料サイクル機構に対して、地域住民の安全確保が最も重要であることから、安全管理を徹底した上で事業を進めるよう常に要望をしているとのことです。

また、六ヶ所村の施設は課題もありますが、恩恵を受けている施設でもあるというご挨拶をいただいております。

次に委員からの質問に対しての内容になります。

まず、住民感情はどうかということでしたが、住民は、危険な施設であるとまだ感じていない、安全な施設と思っているということでございます。

また、那珂市でも、再稼働に興味がないというのがほとんどなのだがその辺りはということでの質問をしたところ、東北町の議員からは、サイクル施設はまだ稼働されていないため、働く場としてはありがたいと思っている。稼働すれば、住民の感情に変化が

起きると思う。ただ、25回も、稼働が延期されているので、事業が果たして稼働してから軌道に乗っていくのか不透明に感じている。

サイクル施設とはいえ、放射性物質を扱う施設なので、事故が起これば、東北町は第一次産業で成り立っている町であるため、直接の被害、風評被害が心配。

また、避難について、主要な道路が太平洋側と陸奥湾側の２本しかないので、退勤時間などは道路が渋滞している。事故が起こったときに避難ができるかどうかが不安。

農協が六ヶ所村と東北町は同じなので、産業の振興においては、原燃から費用など恩恵をもらっているなど、農協と原燃が持ちつ持たれつの関係になっており、お互いが助け合っている。

次に東北町は、農産物や海産物など第一次産業が盛んであるが、福島を例にとってみると、被害が大きくなると思うが、現在いただいている交付金と見合っているのかという質問をしたところ、議員からは、雇用の場という点で、東北町からは約250人が日本原子燃料の施設で働いているということでございました。

また、稼働はしていないが、雇用は守られているのかという質問したところ、東北町に泊まっている方もいる。原燃は通勤用のバスをチャーターしている。六ヶ所村の施設までは、バスでの移動となっているということです。

また、再処理工場の事故は、国内で起きていないが、海外では起きている、そのような確証は行っているのか、工場が稼働していないが、使用済み燃料が入ってきている、その辺はどのように思っているかとの質問に対しましては、25回も延期しているので、町民は慣れている感じがある。最近、冷却装置の操作ミスがあったが、稼働していれば許されないことで、事業を進めている当事者にも緊張感がないように感じる。規制委員会から、求められる資料も作成できない状況となっている。

次の質問ですが、稼働すれば廃棄物が出てくる。世界的にも再処理しないで保管するという動きも出てきている。その辺も含めて地元の皆さんがどのように考えているのかという質問には、こちらは、青森県とすれば、県を最終処分の地にはさせないと言っている。青森県を高レベル廃棄物の最終的な置場にしないと言っている。稼働すれば、この点は矛盾が深まっていく。施設がある限り、今でも使用済み燃料が貯蔵されているので、きちんとした運営をしてもらわないと困るということでした。

また次の質問ですが、使用済み燃料が置かれていることについて、町民はどう思っているかとの質問ですけども、こちらに関しては、25回も延期しているため、今まで様々なトラブルがあった。しかし、我々には大きな影響を受けていないので、25回の延期で、そのような感覚が植え付けられている。また、稼働していなくても、地元での雇用の場となっている。少しでも地元に人を残したいという住民感情が、大きな声を上げることができないことになっているということでした。

あと、東北町議会議員からの意見としましては、避難については、東北町は５キロメートル圏内には入らないので、関係ないという感覚がある。雪によって避難が困難ということもある。東北町の当初予算は120億円で、依存財源が約７割になっている。住民の気質としては、内向的な面があり、共存共栄的な感覚があり、事故が起きてもさほど感じない。六ヶ所村の平均年収は約1,300万円となっている、９割の村民が原燃の仕事に関連しているとも言われているということでした。

続きまして、六ヶ所村再処理工場の視察した内容についてのご説明をしたいと思います。こちら、施設は海側から５キロメートル離れていて、標高は55メートルのため津波対策は要らない。再処理工場は、発電所のように、冷却の必要がないため陸側にあるとのことです。社員数は3,200名、そのうち64％が県内からの雇用だということです。従業員2,000人のほか、現在、安全対策工事でほかの会社から約8,000人が施設で働いているということです。地域との関係で、地元産品を電力６社と販売促進をしている。

ウラン濃縮工場では天然ウランの中に燃えやすいウランが0.7％しかないため、３から５％に濃縮している。現在新型遠心機への更新作業を行っている。

低レベル放射性廃棄物埋設センターでは、全国各地から約１万本を受入れて、ここが最終処分となる。日本原電からは１万7,000本受入れている。高レベル放射性廃棄物埋設センターでは、再処理した後に出てきた再処理できない最終処分するものを、最終処分場が決まっていないため、一時的に30年から50年貯蔵する。日本原電では67本を受入れている。使用済み燃料受入れ貯蔵施設は、全国の原子力発電所から出てくる使用済み燃料を再処理するまでの間、約3,000トンのプールで貯蔵している。アクティブ試験による再処理量約425トンとともに、現在、3,393トンとなっており、このうち原電からは、189トン受入れている。このプールに空きをつくって、発電所の再稼働がしやすいようにするのが目的ということでございました。

説明は以上です。

委員長　ただいま、事務局から概要についての説明があったわけでありますけども、各委員さんのほうから１人ずつ、感想なりご意見を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

副委員長　皆さん考えている間、少し私が感じたことを言います。

まず、東北町議会の方はあまり危険を認識してないけども潜在的な危険は分かっているという、分かっているってほどじゃないです。なんていうか、持っているというのはそんなもんかなと思いました。

なかなか再処理工場関係の事故っていうのは、最近は私も聞いたことなくて、原子力開発の初期には、旧ソ連でとんでもない事故があったんですけど、ちょっとした爆発事故なんですけど、それなりに対策ができていることなのかなと思いました。

見学で、こんなもんかなと思ったのは、低レベルの廃棄物の処分場、すごくでかいですよね。これで今の段階だけであの大きさが必要って、これからどうなんだっていうところが、やはり気になりました。

それから安全対策で、何かのときに冷却、冷却いらないっていうのは原発みたいな冷却いらないんですけども、そうは言っても全くゼロじゃなくて、何かのときに、通常の冷却設備が駄目なときに、つなげるパイプというのを用意されているっていうのは、ちょっと驚きましたね。驚いたってのは、要するにパイプがあって、すぐつなげるようにはなってないんですよ。だから、それなりの時間がかかるんですよね。その点どうかなと。どっかも一緒でしたね。原発関係の施設、日本原電だったかな、その辺もちょっと気になりました。

それから、みんなの場面で聞いたんじゃないんですが、一緒について回った方に、ちょっと気になってることを聞いて、そしたら、その方が誰か呼んだんでしょうね、もっと分かる人、でいろいろ話を聞いたことがあります。

それは東海村で、原子力機構が全然うまくいってないガラス固化処理施設、あれは旧動燃が開発して、それを大型化して、六ヶ所村に送ったっていうことになってんです。初期にはトラブルがあったということも聞いていましたし、大元の動燃のほうでいまだにうまくいってないんですよね。何度も何度も作り変えたり改良したりしているようですが、うまくいってないんで、その辺どうなってるかって言ったら、それなりにうまくいってるような言い方はしてましたね。

ただし、入れたものをそのもの入れたんではなくて、彼らなりに考えてやったっていうようなことを言ってました。具体的には温度センサーをたくさん増やして、それで、結局詰まるのが問題なんですけど、多分出口近くで、そこの温度管理とか、そういうのをいろいろ工夫してやっていると。

ただ、そうは言っても、作り直すって言ってましたね。形を変えるっていうのを、四角錐状になっているところを円錐状にするような感じのことを言ってました。

セールストークっていうのは変な言い方ですけど、結構、いいことだけ言うことがあるんで、100%信じるわけじゃないんですが、言ってる話を聞いた範囲では動燃で上手くいってない。今は原子力機構でうまくいってないのを、彼らはある程度うまくいってるっていう話が印象に残っています。

以上です。

大和田委員　東北町議会との懇談ということで、やはり何ていうか皆、議会もそう町民もそう、もしかしたらこれ見ると、事業所も当事者も緊張感がないようにっていうことで、延期、また延期という中でもう延期が当たり前で、何かこう、お金が落ちてくればいいんじゃないのみたいな雰囲気がしてたなという感じがします。

町民は六ヶ所村ですか、もうそこで働くと年収が先ほどあった1,300万円以上ということで、非常に何か依存してるっていうか、そういう町なのかなあとは気づいたんですけども、我々に当てはめてみると、もしかしたらそういう経済的効果っていう声というか、国からの財源とかそういったところも東海村だったら再稼働という話になればそういったところも、うちら勉強していかなきゃなんないのかなあなんて思ったりもしましたし、東海村はそして住みやすさ、県内２位でしたっけ３位でしたっけ、原発があっても、そういった人が移り住んでくるっていうのもやはりもしかしたら東北町とかそういうのじゃないけども恩恵というのが、やはり大分あるのかなあと思った次第なところです。

あとはやはり場所が場所ですから、ほんとに原野にあったっていうところなので、我々の町と比べてみるっていうのもちょっと違うところもあるのかなというのは非常に大きく感じたところでございます。以上です。

冨山委員　１番最初にびっくりしたのは、あまりその迷惑施設だと感じていないっていう部分が、やはり町政運営の面においてもあまりにも恩恵が大き過ぎるので、本市の置かれてる状況は違う町だなっていうのが第一の認識でした。

あと、雇用の面でも、東北町は250人、六ヶ所村では９割が関連ということで、大変参考にはなりましたが、いろいろな状況が本市とはまた違うんじゃないかなって。

これを本市に当てはめ、どうこうっていうのはどうかなっていう部分感じました。

あと、つながりが深くなればなるほど、市民感情も大きく変わるという点を改めて考えさせられました。以上です。

關委員　最初の町長のお話で、課題はあるがというような話がありましたけど、その辺の課題をもうちょっと詳しく聞きたかったですね。

25回延期されているっていうことですけども、その延期の内容もかなりいろんな問題が絡んで延期になっているんだろうと思うんですけども、その辺のところをもうちょっと詳しく聞きたかったという感じがします。

初めて行きましたけど、なんせ敷地が広いのにはびっくりしました。

最終処分場反対云々のこともあるんでしょうけども、これだけの敷地であれば、そういう処分場的な場所も確保できるんじゃないかなって個人的な感想でした。以上です。

笹島委員　我々、六ヶ所村から随分離れた三沢市という、非常に原子力関係の人とか、三沢基地米軍があって、あそこだけ活気がありましたね。

だんだんだんだん下北半島の突端のほうに行くにつれて、そして東北町で、いろいろお話を聞いて、最終的に六ヶ所村へ行った。ほとんど原野でしたね。

驚いたことに東北町の議員が言ってましたが、一次産業が成り立たない。

米も野菜も作れないというところでしたよね。根菜類しか作れない、ニンジンとかそういうものっていうことですか。

本当に雪も大変だし、植物も育たないというところで、先ほど言ってました、これだけの雇用と、六ヶ所村が、先ほど大和田委員が言ってました、年収1,300万円、これもう都心並みの給料ですよね。私らは平均年収450万円ですよね、今の日本の賃金がね。３倍近くも取ってるわけですから、そういうあれで、本当にそれで成り立ってると。

問題があるのは、低レベルを引受けているということで、ここ、なかなか高レベルはどこの市町村も引き受けないんで、最終的には引き受けざるを得なくなるのかなということを考えておるようなところでおりました。

いずれにしろ先ほど大和田委員が言っていたとおり、全く東海村の我々の人口90万人の市町村の原発に近いところに住んでいる危険性がリスクがあるようなとこと、最終処分場というところで、今言ってたところで全く違うんで、こういうとこもあったということで良い視察をしてまいりましたということです。

委員長　各委員から、ご意見をいただきましたので、こちらなりに、意見をまとめてみますと、東北町議会との懇談におきましては、雇用の面で地元になくてはならない施設、年収の面でも雇用の面でも、非常に町民の方が関連しているという実態が見えてきました。

また再処理工場が何度も延期されて、稼働されてないため、そのときは 25 回延期、この前増えたので 26 回になっているんでしょうけども、危険性の認識がない、緊張感がないというような感じで、住民がそのような件に慣れてしまっているということを感じております。

また、東北町の産業なんですけども、非常に米や野菜もできない、根菜類中心、もしくは水産業しかないと、そのような地域でありますので、やはり原燃に対する依存度は高い。

しかしながら、この那珂市と東海村などの関係とはまた違うということです。

こちら非常に人口密集地で向こうは原野ということで、あまりその比較にはならないなっていうふうなことが感じられました。

また、六ヶ所村との避難道路っていうのが、太平洋側と陸奥側大きなルート、二つしかなくて、私も以前、冬に行ったことあるんですけれども、非常にふぶいておりまして、視界はなく、避難は混乱するだろうということで、避難道路の件も難しいというふうに感じております。

あと再処理工場のほうは、これ各委員から出ましたけども、非常に敷地が広大で、あそこだったら、そのような施設もできる可能性があるだろうということでございます。その施設の内部ですけども、突風や竜巻に遭いましても、施設が破損しないための対策工事が行われているのを実感しました。

あと、核燃料の一時貯蔵場所の造成工事などを視察しましたけども、しばらく時間がかかるのではなかろうかなっていうふうな実感を受けて、それがいわゆる許認可の先送

りになっている一つの要因かなというふうに私自身も感じたわけでございます。

あと私個人の私見ですけども、今回の施設によりまして、東海第二発電所の再稼働の問題について、老朽化や津波対策以外にも、雇用の面であったり、核燃料の再処理であったりと、原発再稼働への判断材料が、今回の視察で増えたのかなというふうに思います。

いわゆる単なる再稼働の危険ということと同時に、そこから出る様々な廃棄物とか、そのようなものが、六ヶ所村とかで再処理されるんだなっていうことが一つ分かったかなと思います。

それとあと、別件ですけども、先日、岸田総理が原発再稼働に向けてですね、国が前面に立って再稼働を進めるという方針を示しているわけでありますけども、その一つに東海第二発電所の名前も挙がっておりました。

これにつきまして、茨城県の大井川知事は、コメントとして、スケジュールありきで議論するつもりはないということで、東海第二発電所の早期の再稼働が難しいということで、地元の日本原電と６市村における協定ということがありますので、その辺りのことが、国は理解していないんじゃなかろうかなというふうに感じております。

私ども議会としても、市民や団体からの様々な意見を聞いたわけでありますけども、この議員の中でも、勉強を重ねながら、市長に適切な意見が述べられるような判断と提言をしなくてはならないなっていうふうに考えておりまして、それを踏まえながら、議員勉強会を行っていく必要があるかなと思います。

この議員勉強会のほうに移りたいと思いますが、あと感想とか、もうちょっと述べたいこととかございましたらお願いしたいと思います。

大体今のようなまとめでよろしいですか。

（「はい」と呼ぶ声あり）

委員長　では、第１項目の視察２件の意見集約と感想及び私たちの今後の活動方針ということはこれで終わりにしたいと思います。

続いて、（２）の議員勉強会について。

先般、東海村議会の原子力問題調査特別委員会で東海第二発電所の再稼働をめぐる請願審査に資源エネルギー庁の幹部の方を参考人として招致し、意見を聞いたという記事が茨城新聞に掲載されていたわけでございます。

そこで、我々も資源エネルギー庁の方を呼んで、東海第二原発を含めた国の現エネルギー政策全般において、話を聞いてみるのもいいかなというふうに思っております。

総務生活常任委員会でも太陽光発電が調査事項となっておりますので、委員会単位ではなく、全体の勉強会ということでお話を伺いたいと思いますけども、皆様のご意見、いかがでしょうか、この資源エネルギー庁の話について。

笹島委員　資源エネルギー、非常にエネルギーが高騰しているあれで、国も原子力の再稼働進めていくという、もう一つ、今言った太陽光の自然エネルギーも進めていくということで、資源がない日本にとって非常に厳しい状態、世界各国もインフレ状態になっていますよね。もう暴動が起こるかもしんない、デモも起こるかもしれないと、非常にもう危機感がある時代にあるもんですから、話は長くなっちゃいましたけど、そういうことで自然エネルギーのことについて、やはり勉強を我々していかなければ、分からないでは済まされない時代になってきたと思います。よろしくお願いします。

大和田委員　笹島委員の今言うとおりで、そしてこの間も総務生活常任委員会で太陽光の勉強会っていうことでやっておったんですけど、やはり太陽光発電を進めるにあたっても、やはり様々な問題があるということ。

多分、総務生活常任委員会の皆さんも、そういったエネルギー問題に大分、関心等があると思うので、全員で勉強会、非常にいいことだなと思います。

以上です。

冨山委員　まさに総務生活常任委員会のほうで今太陽光のほうの規制も含めて、いろいろなエネルギー事情を学ぼうと思っているところなので、非常にタイムリーであって大変うれしく思います。よろしくお願いいたします。

關委員　私も総務生活常任委員会に入っていまして、まさにその話、太陽光の勉強を進めているとこですけども、この前も新聞で、改良型の原子力なんていう話も出てきまして、国は再稼働の方向に完全に移行しているようだとはっきりしたわけですから、その点も含めて皆さんの勉強会は大いに賛成です。

委員長　皆様の意見をまとめますと、そのような勉強会を行うということで、資源エネルギー庁から国のエネルギー政策全般、そして東海第二発電所を含めた原発の再稼働ということに関しまして勉強会を行うと。

原子力安全対策常任委員会が主催ということで、結果としては全員で話を聞くということで行いたいと思いますのでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ声あり）

委員長　日程等は事務局のほうで調整してもらい、決まりましたら、もう一度皆様にご案内したいと思います。

これは公開がよろしいのかな、それとも限定がよろしいですか。

副委員長　公開したほうがいいと思います。ただ傍聴という形で、傍聴者からの議論とか質問とかはなしにしたらいいかなと思います。

委員長　あと各委員からの質疑とかに関しては問題なしでしょうか。

副委員長　それはもうガンガン、私聞きたいという話もあって、特に岸田首相がああいうことを急に言い出したので、私としてみれば、原発絶対駄目とか何とかじゃなくて、要する

にメリットとデメリットの天秤というのがあると思うんですよね。

正直言って、どういう考えで岸田首相があんなことを言ったのか分からないところがあります。だからその辺を聞きたいと。

それから關委員からちょっと新しい形の原子炉って話がありました。

私の個人的な考えですけど、個人的だってへんな言い方かな、ちゃんとした考えを持って公にできる考えですけど、核エネルギーの利用がいいとか悪いとかという問題以前に、どういうふうなものであるか、安全対策しているとかなんとかじゃなくて、どんなふうに安全なのかっていうことですね。対策云々じゃなくて。

それから考えると、新しい原子炉っていうのは一つの選択肢だと思うんですよ。

ただ、何分にも、今まで原子力やってきた方々が、今までと大した違わない考え方で、新しい原子炉だからいいんだっていう感覚でやられては困るし、新しい原子炉を造るんだから、古い原子炉も動かすんだっていう話も単純にそうされたらおかしいと思っています。

ですので、結構資源エネルギー庁には厳しい質問が出るかもしれないですけど、それを承知の上で来ていただくという形にしたいと思っています。

委員長　あとこのような形でやったらいいんじゃないかっていうアイデアとかありましたらば受けますけど。

冨山委員　１番やはり聞きたいのは、本当に、現状の電気が今逼迫した状況なのかっていうのがやはりそこが１番知りたいところで、それを補うために自然エネルギー、太陽光などでは賄い切れないのかっていうのが２点目で、それを賄うために、つまりは原子力に行くのかっていうとこまでやはり３段階あるのかなという、電気が現状足りてれば別に、原子力の再稼働なんて急に言わないはずですし、今現状の中で逼迫が起きてるから、何か今逼迫宣言なんかも出ますよね、それは本当に起きてることなのかっていうのをしっかり学んでいきたいなと思います。

委員長　あとほかにございますか。

なければ、資源エネルギー庁の方からのヒアリングということで、これは公開をして、そしてあと議員の方々の意見等は、どんどん皆様から出してもらうと、そのような形でもって行いたいと思いますので、日程決まりましたらご連絡を申し上げます。

あとほかに、その他の項目で何かございませんか。

副委員長　今、資源エネルギー庁の方から話を聞くっていうのが決まったんですけど、それを聞いた後、比較的反対の方から話を聞きたいと思っているんですが、ただ、どういうふうに原発に反対の方の話を、どういう分野で関心がある、何ていうかな、反対論のどういう観点で聞きたいかということで、誰呼ぶかがちょっと悩ましいところなんです。

正直なところを総合的に話せる人ってあんまりいないんですよね。

かなり専門的にやっている人がいるので、ちょっと考えちゃっているとこなんです。

前に私、全員の場でちょっとお話ししましたけど、新しい議員もいらっしゃるので、資源エネルギー庁の話を聞いてから、そのときにこの次にこういうことを聞いたねっていう話を皆さんに伺って、それからまた考えたいと思います。

場合によっては私が１回お話ししてから、この分野でもっと別の人の話、それは賛成論も反対論も聞こうかっていうふうな進め方したらいいかなと思うんですが、いかがでしょうか。結論先送りということですけど。

大和田委員　私も副委員長の意見に賛成で、やはりまず資源エネルギー庁の話を聞いて、それでもやはり疑問等々多分出てくる、勉強したら出てくると思うんで、それからの判断でいいのかなと思います。よろしくお願いします。

笹島委員　あれ、今資源エネルギーは、それはいいとして、先ほど言っていたその原発に対しての反対の意見を聞きたいとか何とかっていう、もちろん両方を聞かないとあれになるんじゃないかな、やはりちょっとエネルギー政策も変わってきているからね。

ですから、多分、資源エネルギー庁は、やはり国のための言うわけですよね。だから、もう賛成も反対もない当たり前のように言ってきますよね。ですから、今度我々の原子力の場は両方やはりそういうのもふまえて、中に詰め込んでいってそれで両方から聞かないと、適切な判断できないですからね。

それでよろしくお願いいたします。

委員長　日程的には、資源エネルギー庁の話を聞いてから、反対論者の話を聞くと、そんなふうな流れでやっていきたいと思います。

あともう一つ、東海村にある積水化学というところで、汚染事故があったわけでございますけども、本当は今日ヒアリングを行いたかったんですけども、担当者の体調が悪かったということで、次回に持ち越すということになっております。

それも含めて、次の委員会を開催したいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

あとほかになければ、これにて本日の議題は全部終了することになります。

以上で原子力安全対策常任委員会を閉会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

閉会（午前10時42分）

令和４年11月30日

那珂市議会　原子力安全対策常任委員会委員長　武藤　博光